少年・少女のための痛悔の手引き（3）

コルニリイ　西海枝　裕　訳

2　初めての痛悔

あなたは何か悪いことをしてしまったと、初めて気付いた時のことを覚えていますか。どんな気持でした？　わたしたちは大抵、何か悪いことをすると、すぐにそれを改めたいと思います。そのことが全く正しくなかったと分かると、非常に気持が悪いものです。もし他人の気持を傷つけたり怒らせたりすると、その人に赦してもらいたいと思います。自分が父母の言うことを聞かなかったとしても、なお父母がわたしたちを愛していてほしいと思うものです。しかし多くの場合、物事をもう一度正しいものにするのがわたしたちの責任です。「すみません」とか「どうか赦して下さい」とか、自分が悪かったと認めることがわたしたちの務めです。過ちを心から認める時に常に起きる素晴らしいことは、すべてが又もとのように正常なものとなることです。物事が好転し、わたしたちは他人と愛し合いながら共に生きていることを再び強く感じます。

他の誰よりもわたしたちを愛して下さる方は神様です。神様はわたしたちが気付いているより以上にわたしたちを愛して下さいます。たとえわたしたちが神様を愛することを止めても、また神様の子供として立派に生活していくことを忘れても、神様はわたしたちを愛することをお止めになりません。しかし神様はわたしたちが良い子供であるように強く望んでおられます。わたしたちが神様に従い、神様がわたしたちを愛して下さるように、わたしたちが互いに他人を愛し合うことを強くお望みです。

（続く）

※※※